

令和6年度 第1回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和6年8月16日（金） 午後1時30分～午後2時10分
- 2 開催場所 中央公民館1階 講義室
- 3 出席者

町	長	星野 淨 晋
教 育	長	鈴木 秀 輝
教 育 委 員		高橋 浩
教 育 委 員		眞野 有 吏
教 育 委 員		影山 やえみ
教 育 委 員		長島 宗 紀
- 4 事務局

事 務 局	長	朝倉 通 彰
学 校 教 育 係	長	山 本 みち代
社 会 教 育 係	主 幹	山 本 諭
社 会 教 育 係	長	神 谷 仁 志
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
 - (1) 教育行政全般について

事務局長：それではただいまから令和6年度第1回西伊豆町総合教育会議を開会いたします。開会に当たりまして、町長からご挨拶を申し上げます。

町 長：皆さんこんにちは。本日は令和6年度第1回西伊豆町総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。また台風につきましては、おかげさまで8号に引っ張られたのか、どんどん東の方に抜けていっていただきまして、この伊豆半島もほぼ被害もなくお盆を過ごすことができしております。またコロナも明けてきて地域の祭りも大分復活してきているような感じですが、中には人口減少であったりとか、担い手不足で今年を最後に終わられた地区もあるようなことを聞いておりますので、なかなか人口減少という問題は大きな影響を与えているなというふうに思います。教育分野におきましても、やはり子供の数が少ないので、どういった教育を子供にしてあげるかということも皆さんのご意見をいただきながら考えていかなければいけないなというふうには思っております。また、後ほど詳細につきましては担当の方から説明あるかというふうに思いますけれども、皆さんにご理解をいただきまして、台湾の中学生の交流でございますが、今年の10月にホームステイという形を使って実施をしたいということで、募集をかけましたところ、6名の枠に19人の応募がありまして、3年生についてはですね最終学年になりますので、この3年生の応募の中でくじ引きをして、抽選をさせていただきました。1年生2年生につきましては、また来年、再来年のチャンスがありますので、そういう形をとらせていただきましたので、ご理解をいただきたいなというふうには思っております。また、後ほど教育長のほうからお話ありますが、やはり子供の減少によって中学校の部活の問題など、今までとは大分違う環境が生まれております。今まで分かっていたところではございますが、如実に表れてきておりますので、そういったことにつきましても、皆さんのご意見をいただきながら、いい方向で子供たちの教育や、そういった体育のですね、環境づくりをしていきたいなというふうには思っておりますので、ぜひご忌憚ないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局長：ありがとうございました。それでは引き続き議事に入りますが、議事の進行は座長であります町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

町 長：はい。それではご指名でございますので、しばしの間、座長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。まず3の議事（1）の教育行政全般につきまして事務局の方から報告等ありましたらお願いします。

事務局長：それでは私の方からですね、町長の冒頭のご挨拶にもありましたが、中学生の国際交流事業について説明させていただきます。A4のペーパーを1枚配ってございますが、先ほども町長からありましたが、募集を行いましたところ、応募状況というところの表になりますが、3年生で9人、2年生で2人、1年生で8人という内訳で19人の生徒から応募がありました。応募要領にもですね、上級学年を優先し、抽選によって6人を決定といったことでございますので、3年生の9人にですね。生徒本人の抽選ということで、くじを引いてもらいまして6人を決定しております。男子が2人、女子が4人でございます。地区につきましてはですね、仁科地区と田子地区という結果になりましたが、安良里地区と宇久須地区の児童が生徒がくじ引で漏れてしまったということで、なかなか地区は平準化されておられません、そのような状況でございます。それからですね、行程についてですけども、現在まだ調整中でございますが、資料の中段に予定が記載されておりますが、生徒6人と随行の大人5人ということで行程が記載してございます。10月10日の木曜日ですね、授業終わって午後6時頃ですね、西伊豆町を出発しまして、羽田近辺のホテルに前泊という形をとらせていただきまして、翌日11日にですね、羽田空港から出発をするという予定になっております。生徒はですね、11日の到着後にホストファミリーとの対面式を行いまして、その夜から14日の月曜日までですね、ホームステイとなるというような予定でございます。一方で大人の中学校長、それから事務局職員3人プラスALT1人ということで、5人につきましては、今後の教育旅行の視察であるとかですね、あるいは中学校での中学生の授業の視察、高雄市政府教育部との懇談などを行う予定です。またですね参加生徒につきましては、帰ってきてからですね、11月から12月頃にですね、全校生徒に短期留学の経験後の発表をしていただく予定でございます。簡単ですが説明は以上となります。

町 長：はい。ありがとうございます。では、今説明のありました中学生国際交流事業で、ご意見、ご質問等ございましたら、忌憚のない発言をお願いしたいと思いますが。はいどうぞ。

長島委員：はい。報告についてまだ決まってないのはもちろん分かってるんですけども、やはり興味のある方って結構いらっしゃると思うんですが、報告するのは学生のみですか。

事務局長：一応今のところはそういう全校生徒あてにという。

長島委員：分かりました。例えば町民でどんなことどうしてたのかなあっていうときに何か知る方法っていうか何かがあればいいなあと思うんですけど。

事務局長：ちょっと検討させてください。

長島委員：検討で構いません。

町 長：はい。そのほかにありませんか。

教 育 長：一応参加する生徒については、平日なので、これは校長が教育に必要ということで認めるということで、校長の判断で出席扱いという形で子供たちは連れていきます。

高橋委員：はい。予算上の問題でしようけども、参加者が6名、生徒がね。だから、もう少し居た方が生徒たちが大勢いる方が心強いじゃないですか。6名で、ちょっと心細いとかかわいそうかなと思うんですけどね。例えば10名とかね。

町 長：予算的なものがあって6人にしたわけではなくて、美和中学校さんの受入れ態勢と、あとは飛行機がなかなかとりにくいので、今回行きが羽田発になってますけども、当初は成田発を予定してたんですが、なかなか席が取れないっていう状況がありまして、6人じゃなくてもうちちょっとっていうことも言ったんですけども、ちょっとその折り合いがつかなく

て、当初予定どおり6人に絞らざるを得なかったという状況です。来年以降、今年行ってますね、どういう感想を持たれるのかを含めて、来年はもう少し枠を広げたいと思いますし、皆さんにお諮りしたように修学旅行が可能であればそういう形も取ればなと思いますけども、いずれにしても、今年行ってみないと分からないんで、あとは学校サイドと調整次第だと思いますので、まず今年は6人でお願いしたいと思います。

町 長：ほかよろしいですか。はい。それでは特にないようなので、またお気づきの点ありましたら後ほどご質問していただければと思います。ほかに何か報告事項ありますか。

教 育 長：すいません私のほうから、中学校の部活動のことですけれども、前から文科省のほうで、土日の運動部の地域移行ということで、学校の教師の負担の軽減、それと、経験のない先生が指導する部ということで、子供たちが満足の受けられる指導ができてないだとか、そんなのもいろいろあって、地域の方を生かした部活動の運営っていうのができないか。そういう方向に変えていこうということで、今、全国的な動きがあります。そういう中でいろいろ検討したり、それとあと、部活動自体が来年ですね、団体戦に出れないかもしれないっていうのが、西伊豆中学では男子のテニス部、女子のバスケット部、今の1年生2年生だけだと団体戦に必要な人数がいらないということで、来年度、新入生が多く入ってくれば何とかなるかもしれないんですけども、そういう部もある。そして松崎町もやはり同じような状況があるということで、地域移行についても、また部活動の練習等についても、松崎との合同という形ができないかということで、今、松崎町と相談を始めているところです。松崎町も大変だということで一緒にやりましょう。そして、できれば、休日の練習なんかについては、松崎高校なんかとも一緒になってですね、何かできないかな。そうすることによって、運動部だけじゃなくて、文化部なども練習することが、運営することができないかなあなんていう。意見も出てきているところです。そんなのをこれから少し具体的に進めていきたいということで、今度の29日にちょっとまた、教育長、局長、学校教育係、そして、学校のほうからは校長と体育主任等が集まって、もう少し具体的に、まず先生たちの実態ですね。状況、それと、指導者ですね、学校の先生が指導者として期待されるんですけども、休日の指導者としてやってくれる先生がいるのかどうなのか、ちょっとそれ以外の地域の方にどれくらいの人がいるのか。というようなことも調査をしながらやっていきたいなと。できるならば、令和8年度にはそのような体制で始めることができないかなってなっていくことを、松崎の教育長と相談を始めているところです。またそのいろんなこう具体的なところをやってるわけですけども、いろいろな大変な面は、一つはやはり費用面ですね、指導者に対しての謝礼。学校の先生の場合やってもらう場合も、兼務という形で、ちゃんとした謝礼を払ってやるようになろうかなと思いますし、部外者の方の場合もちゃんと支払うっていうことになる、そういうものをどうするのか。それと移動するときの交通費ですね、それなんかもどうするのかというようなこと。国のほうは、受益者負担だということ、親から集めるとか、一部補助があるようなんですけども、その辺がどうするのかっていうところですね、松崎町さんの1番心配してるのは町からの補助ということがどのくらいできるのかということが懸念材料としてある。そうしたときに、西伊豆町のほうはどの程度の補助ができるのか。町長にも、ぜひ町のほうから、そのときには補助をぜひお願いしたいなと思うところでもありますけども。まず具体的な金額とかそういうのが出てきたときに、また相談していくことになりますけども、あと練習会場をどうするかっていうのもありますよね。当初は、例えば、バスケット部は松崎中学の体育館でバレー部は西伊豆中学の体育館でとかって話もちょっとしたことがあるんですけども、さて、松崎の子が宇久須まで来るとなるとその負担というのは大きいのかなと。西伊豆中も大半の子が仁科地区が多いことを考えると、松崎に行くのはそんなに負担でもないのかなと。あるいは勤労者体育館もありますし、その辺はどうなのかな。またその辺をまた考えていく必要があろうかと思いますが、ちょっと皆さんも何かちょっとご意見

とか、こんなふうにしたらいいというような、ご意見がありましたら、ぜひ伺いたいなと思っております。

町 長：はい。では中学校の部活について、教育長から説明ありましたが、ご意見ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

高橋委員：合同でやること自体はいいですね。生徒たちも大勢の中で練習できたりとか。その辺は、合同でやるのが必然的になってくるんじゃないかと思うんですけどね。外部指導者は難しいでしょう。

教 育 長：外部指導者について、地域移行とかできたときに外部指導者について頼む場合は、学校の部活の運営方針っていうか、それを話をして、それに納得していただける方ですね。そういうような状況になればと思います。避けたいのは、チャンピオンスポーツっていうんでしょうか、勝つことを目指してっていうことで、そういう方も地域の方の中には、部活なんかの応援来る方なんかも結構おりますのでね、そういうふうなチャンピオンスポーツとはちょっと違うようなもので学校はやっていけばいいのかなと。またプロスポーツを目指すような、もし大きな学校なら分けてできると思うんですけどね。チャンピオンスポーツを目指すグループと、そうではないグループとかというやり方もあろうかと思えますけど。ただ、西伊豆中学、松崎中学のレベルだと、そんなふうにはできないかなと。あともう一つは、部を減らしちゃうのかなっていうこともあるかなと思います。昔、田子中学が、もう統合の前に大分減ってきたときに、バスケットは男子だけ。バレーは女子だけ。テニスは男女ということで、子供たちは団体スポーツと個人スポーツのどっちかに入れると、そんなことをやったこともありましたが、今のところ中学校は部を減らすということは考えていないと思います。

高橋委員：令和8年に向けて進んでもらえばいいですね。

教 育 長：地域移行になれば休日の練習なんかをもし松崎高校でやるとかってなれば、松崎高校の生徒も一緒にやってもらったり、何とか文化的なものもできないかなという思いもありますけども。松崎高校で日曜日やってる部活っていうのはちょっとあんまりないのかなと。プラスバンドはやってるのかな。あと余り、休日はやってないのかもしれないけど。

町 長：なかなかこの問題が難しいのは都市部と違って、5分で隣町ではないという状況と、電車のように移動手段が確保しにくい。あと、高校が入ると、県と2町の意味疎通ができないとできないので、大きなところみたいに自分の市内に八つ九つの中学校があって、それぞれでうまくやりましょうよっていうことではなくなるので、うちの教育長がやりたいと言っても向こうの教育長が駄目だと言えなくなるわけだし、2町の教育長がいいって言っても県がオーケーしなければできないというジレンマはありますので。あとは先ほど教育長行ってたように費用的なものですよね。うちでやる分にはある程度出したなと思いますけど、松崎の子に西伊豆に来てくださっていうと、バス代出せないから嫌だとか言われると、それもできなくなってしまうので。かといってできない方に引っ張られて全部こちらが負うのかっていうとなかなか厳しいですから。

長島委員：今お話を聞いてまして、親の立場からすると多少負担してでも、例えば子供が一生懸命練習して試合に出れないとか、そういうことがくっついて出れるようになるのであれば、喜んで何かこう手助けなりなんなり、やりたいんだっていう気持ちを町の方でも言っていたければ、親としては賛成してくれる方が多くなってくるのかなと思いますので、話はできるだけしてくっつけるのが大切かなと思います。

教 育 長：運動部に全員が入ってるわけじゃないので、ある程度の受益者負担というのかな、そういうのはやっぱりあるようになるんじゃないかなと思いますけど。今学校だと運動部入ってるお子さんの家庭には、後援会費いただいているかなと思うんです。以前は入ってる入っていないかわらず集めてたようですけど、今は入部している方だけのようです。その辺また具体

的なものを進めながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

町 長：そのほかに教育全般についての問題はよろしいですか。

高橋委員：こども園の建替えの問題ですよね。委員会に諮問していろいろ協議して決めて、じゃあ測量とかの予算要求をすると駄目だ駄目だってやるわけでしょ。何なのかちょっと町民としてよく分からないんですけど、町議が町民から選ばれた。民意に従ってあの人たちが協議して発言して協議してるのか。彼らだけの心情で決めてるのか。町民としてちょっと分からないんですけどね。何が問題なのかわかんないんですけど、その辺が町民としてよく分からないですけどもね。もう町としても対応してるのは大変だなあと思うんですけどね。それともう1点。小学校が田子と賀茂が統合されて2校になって最終的1校にしたい。私の考えは最初から1校にしちゃえばいいなと思ったんですけどね。保護者のアンケートなんかでも、田子の保護者さんの方たちは賀茂小だけど、その後は仁科小と一緒にしたほうがいいっていう、僕は記憶の中で何かあるんですけどね。やっぱり一つにしたほうが、設備費も一つにできますし、マイクロなんかもちちゃんと整備したし、安心安全の部分でも、結構ね、保護者さんたちも、もしかしたらアオキとかね来てるかもしれない。そうすると仁科小で統一。将来的にはなるんでしょうけど、早めに僕はそれを検討したほうがいいのかと思うんですけどね。すいませんその2点がいつも引っかかるもんですから、はい。

町 長：その辺はですね、私たちもなかなかどう説明をしていいのかちょっと難しいんですけども、ある意味、何年に何人子供が生まれて、10年後にどういう状況かっていうのは、私も含めて教育委員会は承知をしておりますんで、建った後ですね、子供たちが10年、20年のスパンで物事を考えると、仁科に全て集めたほうがいいなということでスタートはしております。ただ、進んでいくと、大体建設費とかっていうのは大枠出てくるんですけども、そこでお金の話が出てきて、1番初めに崩れかけていったのがその原因です。逆にお金がネックなんですけども、議会でよく言われるのは住民の意見を聞けっていうふうに言われるんですが、高橋さんおっしゃったように、住民の意見を聞いている人たちが集まってきてそれを決めればいいんですけども、なので、当局に本来は議会が住民の意見を聞けっていうのは二代表制上おかしい話なんです。ですがそれを言われてしまうがために、住民説明会なんかもやりましたし、いろんなご意見をいただきましたけども、そこでは、100人が100通のご意見を当然お持ちなわけでございますので、いろいろなことを言われてきました。最終的には、予定していた農地の転換ができない可能性があるということで、待っていても時間ばかりかかってしまいますんで、違う案を探らざるを得ないというような状況でワークショップをやって、最終的には整備委員会にかけて、安良里で答申をいただいたわけですけども、修正された理由が時期尚早。ということで、ダンプが通るような事案があるような話をされておまして、その調査が終わってからということの時期尚早ということですから、私たちはその結果が出るまではこれ以上進めないのかなというのが現状です。ただ、先ほど教育長が言ったように、もう部活も存続できるかできないかっていうところになってるんで、最終的には松崎と何かを一緒にやらなければいけないときに、宇久須に中学校があって、松崎に中学校があるというのは、地の利的にも余りいいことではないので、どこかに文教施設は集約せざるを得ないんですけども、今のままだとそれすらもなかなかできないという現状です。なので、私たちとしても、住民の意見を聞けと言われて聞いて、それに基づいた答申が出てきたんでその通り出してもですね、通らないということになると、住民の意見を聞いても意味がないっていうことを突きつけられたのかなというふうに判断せざるを得ないんですけど、ちょっとその辺が大分困ってます。かと言ってですね、いろいろ一般質問でも質問されるんですけども、皆さんのご意見は何ですかって聞くと、ほとんどの方おっしゃらないんですよ。なので反対はされるんで

すけど、代案が出てこないですから、こちらとしてもどうしたらいいかっていうのは本当に苦慮しております。ただ、昨日ようやくあれでしたけども、巨大地震注意なんっていうのが出てですね。こども園については1週間閉園をしたりとか対応をとっているのも、当然、浸水想定区域内に園があるためにそうせざるを得ないということで、園に預けてる保護者さんはですね、やっぱりその間仕事に行かずに子供とお家にこもらなければいけないという状況も発生したりですね、いろんな問題が発生しております。なのでやっぱりそういうことをですね、解決するためには、安全な場所で保育であったりとか、教育できる場所を整えてあげないと、できないのかなというふうに思いますが、これには全てお金がかかる話なので、お金がかかるからやるなってブレーキをかけられると結局それもできないという状況ですね。本当にちょっと頭が痛いなと思っております。

高橋委員：人の命に関わるものですからね。お金がかかるのは当たり前。小学校もこの前ね、学校訪問したときに、やっぱり仁科小へ行くと廊下も広いし、教室もゆったりしてるし、そこに賀茂小と一緒に入ってくれば、スペースはありますもんね。いいなあと思うんですけどね。それはこっちの問題なんでしょう。統廃合は。

教 育 長：小学校については、勝手に教育委員会どんどん進めていいよって言うてくれれば。

高橋委員：統合の問題は教育委員会でしょ。やっぱり議会なんですか。

町 長：議決が必要ですね。結論から言うと、賀茂小と仁科小だと、賀茂小の方が海拔が高いんですよ。なので安全性を言うと、仁科小の方がリスクがあるところに連れて行くのかと。仁科小から避難道に行こうとすると、結局右に行こうが左に行こうが200メートルぐらい走ってそれから上に登らなければいけないというリスクがあるので。賀茂小だと地べたでも安全で、2階3階に校舎を登れば安全というところがリスクのあるところに行くのかっていう話に当然なってしまうので、それがあって、新しくピロティ方式で建て直しましよって言ったんですけど、結局お金の話をされちゃうと難しくなったというのが現状ですね。場所的には仁科が1番いいと思いますし。100人が100%いいですって言うてくれる案はないと私たちは承知はしてるんですが、手を挙げる方たちが真ん中に寄っていただかないと。みんなバラバラで同じ意見を言い続ける限りはまとまることはできないので、どこかで妥協はしてもらわないと困るんですけども。ただ、今年生まれて来る子供が下手すると10人を切るんでしょ。母子手帳を発行してるんで、大体把握はできますけど。

山本係長：母子手帳の発行は今年度、今のところないということです。

町 長：そうすると6年後の小学校1年生5人だけでも、7年後は0人という可能性がある。ただ、今度はその話がひとり歩きすると、生まれてこない子供のために校舎を作るのかっていう話に変わってくるんで。かと言ってその前の年の5人は安全じゃなくてもいいのかっていうとそれは違うので。

教 育 長：仁科小の校舎を使いながらその避難対策、何らかの避難対策をとってあげるとかね、それでもお金を許してくれないとどうしようもない。

町 長：一応今そんな形で止まっております。

眞野委員：何やってもお金がかかるってことですよね。避難地に行くにしても、道路整備にしろ、お金がすごいかかるってことですもんね。

町 長：まあただ今後どうなるか分からないんで、今仮設になっている道路については、建設課のほうで本道路の設置で予算をつけようということで進めておりますので、仮に学校建設うんぬん関係なく、農地の方々、中地区の方もちょっと横に入る道が狭い道ばかりなので、そういう整備は先にやっ払いこうかなというふうに思ってますけど。

町 長：では、ほかに特に議事に関係なくてもですね、教育全般で何かご意見等ございますでしょうか。

長島委員：さっきから暗い話で中々話が進まないんですけど、町長としては、なるならない別なんですけど、理想とするその学校の編成の形っていうんですかね、例えば一つにしたほうがいいと思ってるのか、取りあえずバラバラでもいいから安心なところをしたいのかって何かこう、自分の中で理想とか希望とかっていうのがあれば教えてもらいたいと思うんですけど。

町 長：1番最初の小中幼保は施設を共有できるので、当然理科室とか音楽室とか美術室は小学校中学校に必ずあるんで、1個ずつあっても無駄なのでセットで使ったほうがいいっていう感じで私は捉えてたんですけども、今、そもそも松崎高校がどうなるかっていうところから、結構松崎町さんが松高と松中をですね、何かこう、敷地内にみたいなお話もあったりとかで、そうすると今度は、中と小と一緒にできなくなりつつあるのかなというふうに思っていますが、いずれにしても、不要なものをつくる必要はないので、共有できるものについては共有したいなあとは思っています。ただ、中々人数が少ない中でどうするかっていうのを、やっぱり小さい子をメインに考えないといけないので、幼保小はですね、負担が余りかからない教育現場っていうのは必要なのかなと。本当に増えて増えて困ってね、新しいのを立てなきゃいけないっていう議論はニコニコできるんですけど、統合しなきゃいけないとか閉鎖しなきゃいけないっていう話は悲しすぎて。ただ時代がそういう時代に入ってるということですからね、逃げるわけにもいきませんし。なので、今は、スポーツのプロ団体とかと協定を結んで、田舎にいても、直接的には、あれかもしれませんが、あまり、不便がなかったり、経験が積めるような形をとりたいたいなというふうに思っています。ハードができないのであれば、ソフト対策でちょっと穴を埋めてあげられたらなって思っています。ある意味、この台湾の国際交流、そういうのも含めて、田舎にいてもそういうチャンスがあるよっていうのがいいのかなって思っていますね。

長島委員：町民が子供のことは考えてはいるんですけどね、みんな方向が違う。違うところで争ってるっていうなんか教育から離れちゃっているようで仕方がないんですよね。

町 長：またできることがあれば、こちらとしても予算をつけるように努力はしますので、ぜひ教育委員さんから、闊達なご意見を毎月の定例会で発言していただければいいなというふうに思います。では、特にないようなので、司会のほうは、事務局のほうに返しますので、あとよろしくお願いします。

事務局長：いろいろなご議論ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和6年度の第1回西伊豆町総合教育会議を閉会します。本日はありがとうございました。